

ロータリーワンポイント情報 新妻繁市 会員維持増強委員会委員長

入会3年目幹事をやらせて頂き、自分なりにやりましたが中々理解できなかった点が一つありました。それはロータリー財団とポールハリス・フェローの関係であります。

理解している会員は多いと思いますが、入会の浅い会員のために一寸話をします。

ロータリー財団で認証ポイント制度を採用している事は、ポールハリス・フェローの称号を授与することでポールハリスの精神、財団への理解、寄付増額の意図と解釈できる。

しかし、ポールハリス・フェロー（P・H・F）の称号を得るのに、1000ドルを寄付した人と認証ポイントを活用した人との間で整合をはかる必要が生じ、当クラブでは、財団ポイント利用者に利用額相当の金額を任意により「坂本新世代育成基金」に充当寄付することを願う事で、そのギャップを埋め新世代基金の充実を図るものとしました。

ポイント利用の財団寄付額は、一人一回300ドル以上100ドル単位、700ドル以下。

会員個人の保持するポイントは、指名しない限り、クラブ会員のP・H・F申請者に協力。

新世代基金への充当寄付は、一口10000円、1ドル100円のレート計算。

充当寄付は強制されず、期間、口数、回数は寄付者の意志。

財団ポイント利用額と新世代基金への充当寄付に関しては、活動報告書でその記録を留める。

財団ポイント利用者が退会した時は、ポイント利用残があれば自然消滅する。

平成10年1月1日より実効、内規の変更は理事会で決定する。

『 国際奉仕（WCS、GSE、国際青少年）について 』

齋藤 憲一 国際奉仕委員会委員長

委員会の活動計画に基づく担当例会として、講師として足立パストガバナーをお願いし、国際奉仕関係全般についてのスピーチを聞かせて頂きます。お願い致します。

足立 功一 パストガバナー

国際奉仕に関してすぐに本題に入ります。（スライドを使って話を進めます。）

皆様は国際奉仕をどのように理解されておりますか？

人道的プログラム、教育的プログラム、そしてポリオ・プラスと、これが国際奉仕の活動であるということは全くの間違いであります。これは財団プログラムであります。

3H補助金、地区補助金、個人向けマッチング・グラント、国際親善奨学金（財団奨学生）、世界平和フェロー、GSE、グループ交換、教員の補助金、今後無くなるものもありますが、全部財団の補助金プログラムであり、国際奉仕には当たりません。

年次プログラム基金は、財団の寄付を集めるもので、3年後に戻ってきて使える地区のDDFという事です。国際ロータリーが言っている、あなたも一人100ドルをというのが基本であります。P・H・F、ベネファクターは特殊個人寄付で、特に推奨されていません。

一人100ドルを当クラブは達成している、地区67クラブのうち二十数クラブしか達成していない。

ロータリーの変遷と発展について話します。

1905年創立され、一人一業種という事で親睦活動が行われました。翌年シカゴRCの定款が制定され、これで相互扶助という考えが出てきました。1907年に定款改正され、ここで社会奉仕概念というものが生まれてきました。

ドナルド・カーターという人が入会を拒否した理由は、彼は相互扶助だけではロータリーは長続きしないという事でした、社会奉仕の概念を入れなければならないと、シカゴに最初の公衆便所を作った、男性用だけでした、ポール・ハリスが会長に就任した年です。

1908年チェスリー・ペリー（財団創設者）、アーサー・シェルドン（職業奉仕理論提唱者）が入ってきた。親睦をするのが良いのか、奉仕をするのが良いのか、話し合いが行われたが混乱を招きポール・

ハリスは会長を辞任した。

1910年全米RC連合会が誕生、ポール・ハリスはそちらへ移っていく

1911年一般奉仕概念制定

1912年ロータリークラブ国際連合会に改称、模範的クラブ定款5ヶ条が出来た

1915年ロータリー倫理訓が採択され、職業奉仕の基準が確立されて最初の標準クラブ定款が制定

1916年ガイ・ガンデガーによってロータリー通解が出された

1920年日本ではじめて東京RC創立、国際奉仕の綱領化概念できる

国際ロータリーに改称

1922年クラブ定款抜本的改正

1923年決議23-34が採択、奉仕活動の原則が出来た、表向きは社会奉仕活動の規定となっていますが、中味は奉仕活動の原則の確立であります

1934年四つのテスト発表

クラブ奉仕は1906年の相互扶助、親睦。職業奉仕は第2部門で、1910年綱領制定、1915年倫理訓採択、奉仕基準の採択。社会奉仕は第3部門として、1907年シカゴRC定款改正でトイレづくり、1923年セントルイス国際大会で決議23-34採択。国際奉仕は1922年ロサンゼルス大会で話が出ました。1962年のWCSプログラムが導入されました。

国際奉仕の考えがどこから出てきたのか？ ポール・ハリスがロータリーを創る5年前、世界を旅したことから、後年世界平和の実現を目指すのがロータリーの道だと著書に書いています。国際奉仕の概念すらなかった創世記に、一業種一人、例会出席という過酷なまでの条件をつけて、更に女性会員の参加も拒んだロータリー、一方であえて国籍や宗教上の制限を設けなくて、広く世界に門戸を開いたというのは、この世界平和の実現という事を目指してロータリー活動をしていくんだヨという、ポール・ハリスの胸のうちにあったのではないのでしょうか。

ロータリー章典の中に、ロータリアンの中に、一般の人の中に理解と善意を育む事がロータリーの国際奉仕が果たすべき役割であると書かれている。基本方針はロータリーの綱領第4項にあり、綱領は1~4項で内容は国際奉仕と職業奉仕がきっちりと書かれている、RI定款第4条に載っている。WCS、国際レベルの文化教育活動などは、特別月間と催しを行う、大会、会合を開く事とし、地区外その他クラブとの交流などを深める事に、規定や規制があり、クラブの責務を守る。世界社会奉仕プログラムは、国際奉仕活動からなるもので、1. 援助を必要としている人々の生活の質を高める。2. 異なる国のロータリークラブと地区が協力して遂行する。3. プロジェクトの申し入れに情報交換する。4. 国際規模の開発や文化の向上に理解する。の四つがあげられる。その他に、国際ロータリーと財団関係のプログラムを協調する。授与される補助金はロータリアンに知らしめる。この2項目があるので、国際奉仕イコール財団の活動という事になってしまう。厳密にはWCSだけが大きかには財団も含んで国際奉仕としている。

1917年アーチ・クランフの提唱によって国際理解と親善を目的として、ロータリー財団が出来ることが、最初はアーチ・クランフ基金というもので、基金の設立が唐突で理解が得られず、お金が集まらなかった。1937年まで持ち越され、ポール・ハリスが亡くなってから集まり出した。

国連の設立にロータリーは深く関与し協力をしており、1945年国連憲章の原案作成当っている。高いレベルの協力体制を組んでいまして、色々な所へ顧問団を出向させております。アジアで初めてのRI会長で、インドのニッテン・ラハリーさんは、1963年~64年世界を一つの地域社会ととらえ、ロータリーを奉仕の心と、奉仕の実践の場とする大変広い視野に立ったプログラム考案したのです。それがWCS活動であります。WCSを利用して他地区と事業を行う場合、その目的計画を示してガバナーの承認を得なければならない。財団もガバナー、地区委員長の署名がなければ何も動かないのが現状です。

1966年、金銭的制限撤廃により、それまで物のやりとりだけから、WCS例外措置として金銭的援助を可能にした。財政的援助要請の制限条項を撤廃する事は、両刃の刃となる危険性はあるものの、大きな意味を持つ決定で、技術供与やマンパワーの提供のみでは実効が上がらない事もあり、財政的援

助を加えてWCSの大規模な援助を可能にした。日本における懸念はプログラムの性格上、先進国から発展途上国への単なる物的支援や資金援助になってしまうと考えられ、本来国家がすべき事業で、何故ロータリアンがお金を出してしなければならないのか、ロータリーの哲学という職業奉仕の理念や、更には個人奉仕というロータリー独特の理念から乖離されたものではないのかと、陰徳の奉仕の観念から抜け出せない日本のロータリアンだが、RI陽も自認してどんどん広報して下さい。そこが日本のロータリーと世界のロータリーの合わないところであります。WCSプロジェクト活動は、ロータリー財団の人的補助金として、マッチング・グランド(MG)、3H補助金制度の整備が進んで、ロータリー活動の中心かつ重要な分野を占める。あたかもロータリーはボランティア団体という誤った認識を定着させてしまうが如く、世界で凄まじい勢いで成長している。その為、MGの申請が追いつかず今後は廃止される、3Hプログラムも廃止、財団の新しい夢計画が2013年から、新しい機構で行こうという事になってきている。

日本においては、人的プログラムについては国柄、言葉の壁などで交流には消極的で意識や活動は低調であるが、教育的プログラムには熱心である。世界的には人的プログラムが拡大を続け、残念ながら財団資金の獲得合戦になっている。2500地区は比較的早期にWCS事業に取り組み始めており、タイ3330地区、インドネシア3400地区に限定するという事を私の年度で決めた、当地区として適当な人材が育成出来ていない事や資金的な問題から、地域限定して資金を集中投資した方が効果が得られるだろうという理由からです。MG立案にあたり単年度会計にする事で、RI会長やガバナーの意向に沿った計画を組める。活動の基本として、単なる物質や資材をあげるのは不可としている。私の年度では、テレビ、パソコンを贈ったが、e-ラーニングを使って教育システムを構築し支援するという事で、北クラブとしてやりました。3H補助金は多額の資金が出るが、非常に申請が難しく、最終審査も難しいものです。DDFは戻ってきた資金を使うのですが、その一部は地区の活動資金にも使うという事です。恒久の世界平和を目指す事が、WCSの基本であります。